

第3回南魚沼市立小・中学校学区再編等検討委員会議事録

日時 令和5年1月17日 午後2時から午後3時10分

場所 南魚沼市民会館 多目的ホール

参加 委員 18名
事務局 5名

議事

(1) 配布資料の説明

- 資料1 第2回検討委員会議事録の要約点
- 資料2 南魚沼市における児童生徒数の将来推計
- 資料3 石打小学校5・6年生からの統合後のアンケート結果

(2) 小・中学校の適正規模について

(3) その他

1. 開会（学校教育課長）14：00～
2. 挨拶（教育長）（塩川委員長）
3. 傍聴希望者について（許可）
4. 議事

(1) 配布資料の説明（事務局より資料に沿って説明）

- 資料1 第2回検討委員会議事録の要約点
- 資料2 南魚沼市における児童生徒数の将来推計
- 資料3 石打小学校5・6年生からの統合後のアンケート結果

(2) 小・中学校の適正規模について

委員 南魚沼市でこの数値が出たということは、近隣の市町村はこれ以上だと思えます。湯沢町のように旧3町ごとに学区を作ると今の大規模校が将来の中規模校になります。大和地区では平成20年の答申を受けて統合していないのでさらにショッキングな数字になっています。高校生も減るわけなので上越線、ほくほく線、路線バスのインフラが維持できるのか不安に思いました。

委員 石打小学校の5年生と6年生では人数が違うので受け取り方が違いますが、子どもたちから聞こえてくるのは仲間が増えてよかった、この一点です。今回人口推計を基に資料出されていますが、まずは学校教育としての効果や子どもたちの教育環境を中心に考えてそれから適正規模ということになろうかと考えています。2045年の数字は社人研の推計を基にした減少であります、その推計を遥かに超えるスピードで今子ど

もが減っています。クラス替えのできる規模で再編成しても 20 年後にはクラス替えがままならない状況になってきます。やはり子どもたちの教育環境を考えれば、仲間を増やして大勢の中で教育を受けるということが重要だと感じました。

委員 校舎の経過年数 50 年以上という中で大和中学校は実際に雨漏りしているということもあり危惧される場所です。市は学校施設だけでなく健診施設やごみ焼却所の財政計画の中で今後お金がかかっていくところです。それらを踏まえたうえで子どもたちの教育環境を整えるとなると、究極の小中一貫校というような方向で出ていけないといけない。早くに方向付けをして子どもたちの環境をどういう風に学校教育課で後ろ盾をしてあげるかが一番問題になってくるのではないかと思います。

委員 大巻地区の見守りをしていますが、八海中学校で一番最初にバスに乗る子どもたちは小学校の登校班とほぼ同じ時間に出ています。これ以上校区が広がると親御さんはもっと大変になると思います。

委員 2045 年より早くに一桁になる学級がたくさん出てきてしまいます。子どもたちが意見を出し合ったり大人数でできる活動がしにくいという点で少なくとも 1 クラス 20 人いると色々な活動ができるなど考えていました。湯沢町の話も聞きながら小中一貫校を進めていくのも一つなのかなと考えました。大人数になるといくらアンテナを高く張っていてもきめ細かく見取り切れない部分がでてきます。クラス替えができることでリセットできたり色々な人間関係で学ぶことができたりという良さは経験の中で感じます。しかし、問題が起きた時の対応を考えた時に、統合する際には県の予算がつかない部分は市で予算をつけて対応できるスタッフを加配していただきたい。

委員 今の学校は昔と比べて細かく対応してもらっているが、学校としてどれくらいの人数なら見れるというのが大事なのではないでしょうか。

教育長 今の学校における指導はきめ細かく丁寧な対応が続いています。学校の職員数については基準があり、基準以外に職員を配置するというのは難しいところがあります。学級数に応じて職員が配置されるので、学校を運営するうえでどのくらいの学級数が良いかを現場の校長先生方からお答えいただくと教育委員会としても大変参考になります。

委員 三用小学校に勤務していた時に統合してクラスの人数は増えるけれど職員数は変わらないという点で、学校教育課からは統合のメリットがなく話が進んでいないという回答がありました。現場としては、級外の職員数によって多忙感や子どもへのきめ細かな対応が変わってきます。6 学年が維持できて、級外の職員が基準通りにいる状態が一番円滑にいくと思うが、この推計通りに行くと級外の職員を確保できなくなるの

でそこをどう補うかを考えなければいけないと思います。再編というゴールに向かって話し合っているのはよくわかるが、魅力がないと外から人は入って来ません。何年もかけて校舎を作っていく中で、同時に定住促進についても話し合っていくことで希望のある学区再編の話ができるなと思いました。小中一貫など大規模校にするとどれだけ級外職員が付くかは県や市の方針によるので、そこを踏まえて手厚い教育を受けられるということを南魚の売りにしていただければ人が集まるかなと思っております。

委員 中学校は学校行事をする上で複数の学級があると学級だけでなく学年にまとまりが出るので、集団での力が身に付きます。1学年に1学級は避けたいというのと、1クラス30人くらいの規模で活動ができると学年が上がっていくにつれて子どもたちの色々な技能が向上していくのではないかと感じています。拠点化などの話も出ていますが、地域のコミュニティを大事にした話ができたらと感じているところです。

副委員長 南魚沼市出身の小学校の先生はとても少なく、中学校の先生はもっと少ないです。新採用の先生も一人で学年1クラスを責任をもってみてもらうようになるが、2クラスあれば経験のある先生とペアを組んで話し合いながら2人で一つの学年を見ていくことができるメリットがあります。当市出身の先生も出てくるとは思いますが、教員不足という課題は南魚沼市にはずっとついてくる問題だと思っています。1学年1クラスで新採用の先生が見なければいけなく苦勞している先生をたくさんいらっしゃいます。そういった意味では2クラスあれば経験者と新採用でお互いフォローしながらやっていけるというのが教員側の意見であります。

委員 少子化・校舎の老朽化・教員不足など様々な課題があるわけですが、どんなに苦しい状況でも子どもたちに夢を与えられるような方向付けができたら嬉しいなと思っております。統合については賛否両論あると思いますが、小学校がなくなるというのは地域から文化の火種が消えていくという思いが強くとても切ないことだということを忘れずに先を見ていかないといけないと思っています。大和地区の学校の築年数を見ると、どんなに頑張ってもそう遠くない先には改築が必要になってくると思います。築年数の経緯を地区ごとに再整理して地区における動きを一つのシートにまとめて4地区ごとに動きを見た上で、拠点校を作るとどうなるか、分散してやっていくのがいいのか検討していくのもいいかなと思いました。築年数が進んできているので、トイレの問題や校舎の整備も出てくると思うので同時並行でしていただければと思っています。

5. 次回の開催予定：2月10日（金）

6. 閉会